

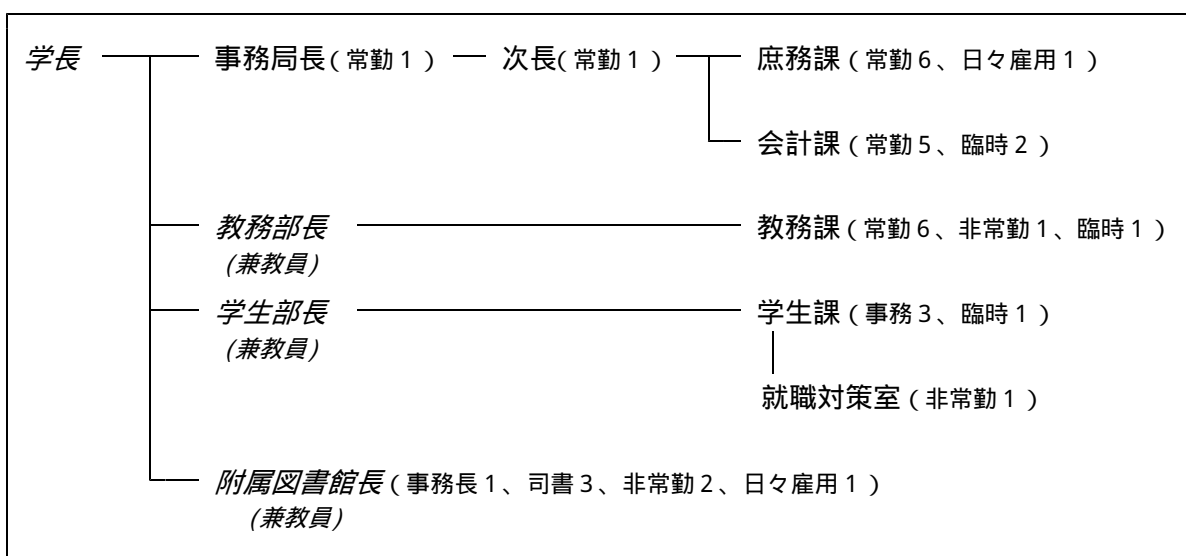
## 事務部門の組織再編（案）

### 1 趣旨

県立大学の独立行政法人化に伴い、新人事制度や会計制度などの円滑な導入をはじめ、当面する課題に積極的かつ的確に対応するため、理事長等のトップマネジメントの発揮や外部委託の導入など効率的・効果的な組織体制の整備に努め、行政需要の変化に応じた事務職員の配置を行う。

### 2 現状と課題

#### (1) 事務職員の配置状況



#### (2) 事務局の在り方

現在の事務局長は、庶務課と会計課を管理し、所属職員（常勤職員12名）を指揮監督している。

教務課及び学生課、附属図書館にも事務職員を配置しているが、学長の権限の下の組織であること、また、教務課及び学生課は兼務教員である部長の指揮監督下に置かれていることから、事務局長に組織上の権限はない。

独立行政法人化後は、副学長が配置され、また、事務局長は副理事長となるため、両者の組織上の権限を含めて、組織の在り方を検討する必要がある。

#### (3) 職員の大学運営に関する専門性

事務職員（司書を除く）は、3年程度のサイクルによる人事異動があり、大学職員としての専門性の蓄積が、国立・私立大学に比べて弱いと指摘されている。

法人化に当たって、大学職員の専門性の蓄積をどのように確保して行くかが課題となっている。

### 3 法人化に伴う業務量の変化

増加が見込まれる業務	減少が見込まれる業務
労務・人事に関する業務 予算、決算等の財務に関する業務 学生支援に関する業務	システムにより効率化が見込まれる業務 ・ 債権管理 ・ 旅費支払事務

### 4 事務組織編成（案）のポイント

#### （１）トップマネジメントの発揮

理事長等の大学運営のマネジメントを発揮するため、権限と責任を明確にした組織体制を整備する。

理事長を補佐する副理事長及び理事の分担業務を明確化し、それぞれの責任体制のもとで機動的な業務執行が可能となるよう、役員の経営戦略の具現化に向けて法人経営の企画立案を行う「経営企画室」を設置する。

大学の行政事務の効果的・効率的な運営のため、教務部及び学生部等の業務内容の検証や組織形態の検討を行うとともに、事務局長の権限の在り方を見直す。

新たに設置する副学長の指揮下に、学部や地域共生センター等を加える。

#### （２）外部委託等の積極的な導入

職員は、企画立案機能や学生支援機能の強化など、環境の変化に応じて発生する業務に対応することとし、それ以外の専門的又は定型的な業務については、外部委託や人材派遣を積極的に活用するなど、大学職員の専門性を確保した事務組織とする。

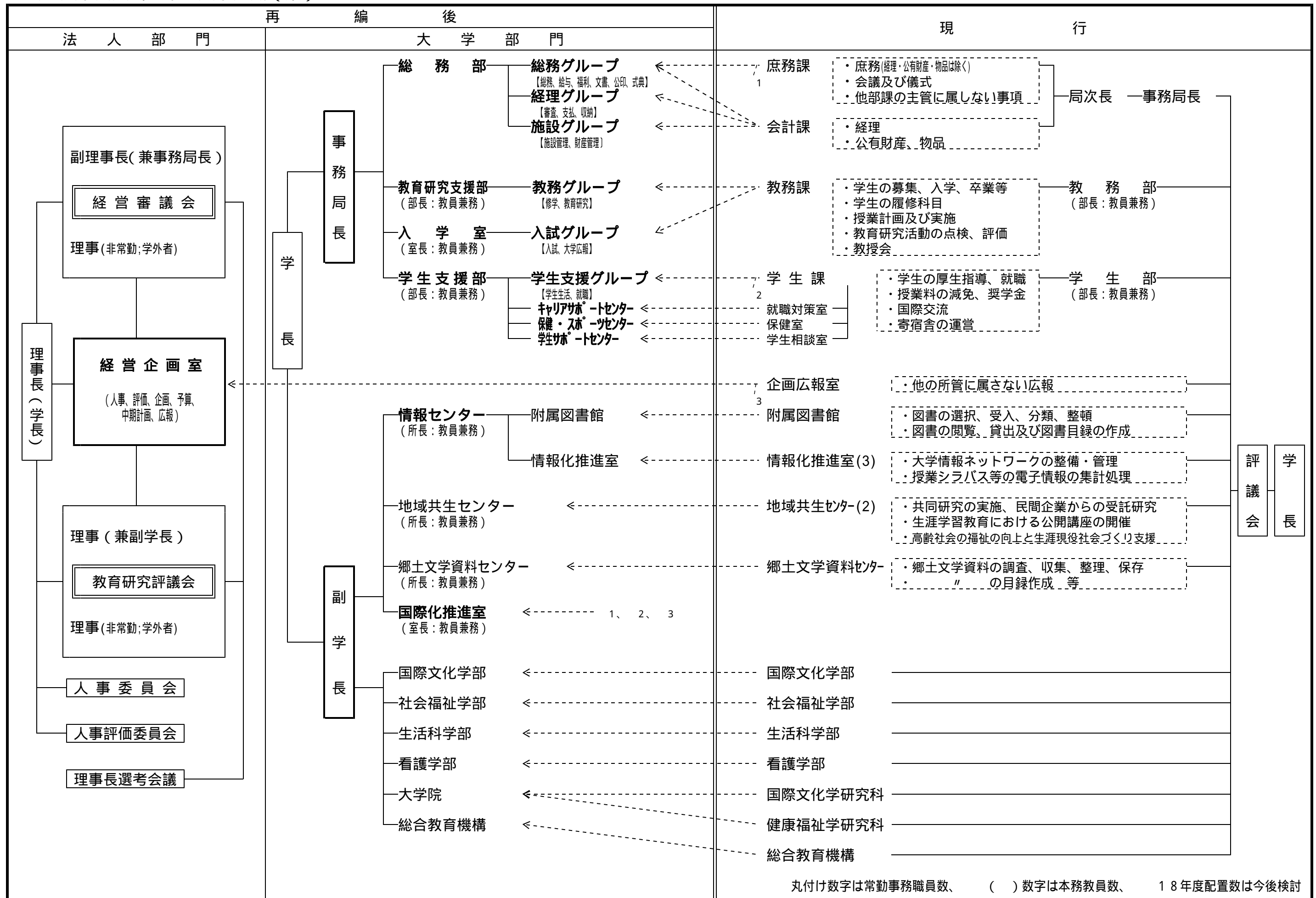
#### （３）プロパー職員の在り方

プロパー職員については、法人化後の業務量等を把握の上、外部委託や人材派遣の活用を考慮しながら、専門性の確保も視野に入れた効果的な採用を検討する。

### 5 公立大学法人山口県立大学組織（案）

別紙のとおり

公立大学法人山口県立大学組織（案）



丸付け数字は常勤事務職員数、 ( )数字は本務教員数、 18年度配置数は今後検討